



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

結核

結核は、過去の病気と受け止め
ておられる方も多いのではないかと
思いますが、実際には現在の日本で
も年間数千の方が新たに発病し
ています。

結核は、結核の患者さんが咳や
くしゃみなどで排出した菌を吸い込
むことで感染し（空気感染）、衣服
や食器などを介して感染することは
ありません。また、結核菌を排出し
た人が近くにいなくても、換気の悪
い場所では結核菌が空気中に長く漂
い感染することがあります。しかし、
感染したからといって必ず発病する
わけではなく、健康な人であれば多
くの場合、免疫により結核菌の活
動を抑え込んで発病することはあり
ません。ただ、結核菌は活動を休止
したような状態で体の中に潜んでお
り、他の病気にかかったり、免疫を
抑える薬の作用などにより、体の抵

抗力が落ちることによって結核菌の活動が
活発化し発病します。結核に感染
した人が実際に発病する割合は1
割程度といわれており、多くの方は
発病することはありません。もし、
結核に感染していても免疫力を落と
さないようにすれば、発病する可能
性を低く抑えることができます。

結核の治療は薬物療法が中心と
なります。結核菌を排出している間
は、結核病棟に入院して治療する
こととなりますが、痰に結核菌が含
まれなくなり他の人を感染させる心
配がなくなれば、通院での治療に
切り替えることができます。治療薬
は、イソニアジド、リファンピシン、
ピラジナミド、エタンブトール、スト
レプトマイシンなどの薬を3から4
種類を組み合わせて半年から9カ月
程度服用することが一般的で、途中
で薬の種類を減らすこともありま
す。数種類の薬を組み合わせて使
用する理由は、薬の効果を上げる、
耐性菌の発生を抑える、などです。

特に、耐性菌に関しては、結核治
療の中心となるイソニアジドとリファ
ンピシンの2つの薬に耐性を持った
「多剤耐性結核菌」の発生が深刻な
問題で、服用が不規則であったり、
中断したりすることで生まれ、薬が
効きにくく治療が難しくなります。
このため、治療を規則的に継続させ
るため、DOTS（対面服薬治療）
という結核患者さんの服薬支援もお
こなわれています。

薬の副作用は、肝臓の機能障害
や発疹などがあり、服薬の中止や
他の薬への変更を検討する必要があ
ります。しかし、前述のように耐性
菌の問題があるため、勝手に服用
をやめないで必ず医師に相談してく
ださい。ほかに、尿が赤くなる、
視力障害、聴力障害なども起こる
ことがあります。いずれの場合にも、
医師に相談して対応策の指示を受
けてください。

（北区 薬局エヒラファーマシー

松本 博志）